

ありがとう

代田中・3 佐野 心音

「ここちゃん」

もう

あの優しい声を聞くことはできない
まぶしい笑顔

もう

目の前で見ることはできない

温かいぬくもり

もう

肌で感じることはできない

数えきれないほどの感謝

もう

直接伝えることはできない

一年前

私の大好きなおじいちゃん

闘病生活に終わりを告げて

天国へと旅立った

信じられなかった

信じたくなかった

治ると信じ

願い続けた思いは

叶わなかった

毎週会えることを

あたりまえのように感じていた

あの笑顔

あの声

これから先

ずっと続くと思っていた

でも違った

自分の心に

ぼつかりと大きく開いた穴

何かでうめることはできなかった

「じいちゃん、じいちゃん」

何度手を握っても

冷たくなる一方だった

それでも残り僅かな小さなぬくもりから

思い出されることはたくさんあった

いろいろな場所へ連れて行ってくれたこと

おいしいものを食べさせてくれたこと

野菜と一緒に収穫したこと

どんなに忙しくても

誕生日にはケーキを持ってきてくれたこと

学校行事にはいつも駆けつけてくれたこと

どんなに苦しくても

自分のことより

周りの人を気遣う姿勢や声かけ

辛かっただろう

悔しかっただろう

もっとやりたいことがたくさんあっただろう

それでもそんな顔一つ見せずに

最後の最後まで

笑顔で人に元気を与え続けたこと

お見舞いに行った帰り際には

「ありがとう」

と必ず声をかけてくれたこと

思い返せば

与えてもらえばかりだった

何も与えられなかった気がして

自分を悔やんだ

だから決めた

私は何かを与えられる人になる

忘れられない

忘れることはない

光輝く思い出を励みに

一歩ずつ前に進んでいく

おじいちゃん

「ありがとう」